

I Sant'Innocenti（見捨てられた児童の会）の活動

マルコ・ロマーニ（ローマ支部責任者）

オリーブジャパンはイタリアの I Sant'Innocenti (I.S.I) を中心にいくつかの国にあるカウンターパートと共に、中米の貧困に苦しむ若者への教育支援を行っています。2018 年 1 月 6 日に名古屋で行われた I.S.I のローマ支部の責任者、マルコ・ロマーニの講演記録です。

（ISI はジョヴァンニ・リヴァ氏が教えた「兄弟愛に基づく平和」の理念の下、主に中米の子どもたちのための働きである。ISI は 2001 年のエルサルバドル大地震の直後から、子どもたちのためのプロジェクトを続けている。寺子屋は今や医療巡回サービスなどにも発展した。ISI のカウンターパートである現地 NGO の FUNDIPRO がエルサルバドルで活動している。）

前号より



子どもたちはきちんと食事が取れていない為、栄養についての教育もします。ほとんどの子どもは米と豆ばかりしか食べていないので栄養失調になりやすいのです。親に対しても成長期の子どもに関する栄養学講座を開きます。

この写真は子どもたちが自分で研究発表をしている場面です。栄養学に関する発表をしています。毎日、50 人から 100 人の子どもがセンターに来ます。特に医療巡回サービスの日は家族を含め多くの方がセンターを訪れます。

また定期的に衛生週間というイベントを行っています。体を清潔にすること、家庭でのトイレ掃除やベッドの整え方などを子どもに教えます。ただし上から下への指導にならないように気をつけています。例えばあるグループはスタッフと共に歯を磨く大切さについて 2 週間かけて研究し、他のグループは家の掃除の仕方について研究をして、衛生週間の日に互いに発表します。子どもたちが互いに教え合うのです。これは小さなガイドブックです。衛生マニュアルのようなものです。





これは移動プロジェクトです。サンサルバドル州から 70km 離れている貧しい地域に、特別なイベント（無料法律相談会）のために行きました。この地域の人々は読み書きができないので、友人の弁護士が定期的に法的手続きのアドバイスを無償でしています。2つの例を紹介しましょう。相談会に来る多くの人は農民で、小さい時から農業をしているため、指紋が消えてしまっています。ID カードを作るには指紋が必要です。種を買うために銀行からお金を借りるには ID カードが必要です。では彼らはどうしたらいいのでしょうか。弁護士が 2 人の証人を市役所に連れて行き、彼（ID カードが必要な人）の身元を証明してもらい、やっと ID カードが作れるようになります。1つの問題が解決します。またある貧しい人が冷蔵庫を分割払いで買いました。突然、今月の支払い額が 2 倍になったと言われたとしましょう。もちろんこのようなインチキを企業はすべきではありませんが、彼らは法律を知らないので騙されてしまいます。そこで弁護士から良いアドバイスをもらいます。この無料法律相談は犯罪に関係しない案件を扱います。もちろん犯罪に関する相談は犯罪専門の弁護士さんに橋渡しをします。

新学期が始まる前には、学校に必要なものを配ります。学校は無償ですが、子どもたちはノートやペンなど勉強に必要なものを持っていないのです。子どもたち 1 人ずつに、それぞれ必要な文房具を渡します。

時々遠足にも行きます。お菓子工場にも行ってきました。見学後、子どもたちはたくさんのお菓子をもらいました。



この写真はグアテマラでのリブロスリブレスという活動です。グアテマラシティに大きな市場があり、朝 6 時から 8 時頃、農家が子どもたちを連れて市場にやってきます。ここの子どもたちを集めてエルサルバドルと同じような活動をしています。もちろん、1 人ずつ、親の許可をもらっています。市場の片隅に場所を作り、本を読んだり、絵を描いたり、遊んだりして一緒に時間を過ごしています。



またホンジュラスでもグアテマラと同じ活動をしています。ホンジュラスは中米の最も貧しい国ですが、中でもクアマケラは特に貧しい地域です。栄養失調や寄生虫に感染している子どもがたくさんいます。この地域で何が一番必要であるかを調査し、現地の方からアドバイスを頂きながら、新しいプロジェクトをスタートさせようとしています。

（次号に続く）

中南米における人間の尊厳と女性の立場 その2

ジョヴァンニ・リヴァ

不平等な扱いを受けている人の中で女性は最も弱い立場にある。南米では特に女性への疑いが非常に強い。しかし実際は、女性は子どもへの大きな役割を果たしており、子どもから大変愛されている。(前号より)

それにもう 1 つの問題があります。戦争・内線のある国では女性が一番可哀相です。夫は戦争に行き、女性はひとりで子ども達を養いながら暮らさなければならないのです。もし夫が死んでしまったら、彼女はこのような女性が守られていない社会状況の中で一人で頑張らなければなりません。或いは夫や息子たちが戦争から障がい者となって戻ってきた場合には、彼らの世話をしなければなりません。戦争や内戦の中で女性の立場がどれだけ弱いか皆さんも想像できるでしょう。

さらにもう 1 つの問題は、開発教育が現実に行われていないということです。現代社会の中では一体何が大切にされているのかといえば、それはお金です。ですからお金が判断基準になっているのです。お金を作るために人間は働かなければなりません。当然ながら、もし社会の中でお金つまり経済的な力が中心になれば弱者がどれほど利用されるか皆さんも想像がつくでしょう。例えば、ホンデュラスでは或る果物メーカーがとても有名ですが、その会社のために働く労働者がどれほど苦しんだかご存知ですか。強制労働の為に、今世紀になっても鞭で打たれているのです。現在、この企業がどんな労働者を雇っているかというところ、韓国人の女子ばかりを使っています。女性ばかり雇うということで女性にチャンスが増えたというような考え方はまだ甘いのです。若い女の子たちは自分を守ることができません。従って労働時間は長く、苛められても何も言えず、解雇されても法律に守られることもないのです。いくら国際発展或いは開発教育と言ったところで、実際にそのような国々では女性に限らず弱い立場に立っている人は非常に辛い目に遭っているのです。

質問：そのような状況にある南米においてリヴァさんのような考え方を持つ男性は一般的に多いのでしょうか。また NGO の男性たちの中にはそのような考え方がきちんと理解されているのでしょうか。

リヴァ：調査をしたことがないので正確にはいえませんが、現地で出会った女性に聞いたところ、偏見のない男性はそんなに多くないそうです。もちろん私にはたくさん友達がいますがそのだいたいは同じ考えを持っている人です。確かに現地で女性の方と働きたいと思ったら問題は山ほどあります。例えば、女性が結婚している場合、夫は嫉妬します。もし若い女性であれば、その両親は彼女を働かせてはくれません。何処に行くのか、誰と一緒にいくのかを問われます。女性と一緒に働きたいならとても時間がかかり忍耐が必要です。

質問：開発国では性暴力が大きな問題になっていると聞きましたが、それについてどう思われますか。

リヴァ：性暴力ということは簡単に説明できることではありません。中南米でもこのような事は大きな問題になっていますが、性暴力の原因は一体何でしょう。原因はやはり不正と貧困です。たぶんもう行かれたことがあるかもしれませんが、皆さんにも是非一度このような国を見に行っていただきたいと思います。このような国の人々の生活は想像以上に悲惨です。例えば、家とは呼べないような場所に 7 人で共同生活をしています。部屋は一部屋でトイレはなく、ベッドも 1 つしかないのです。当然食糧は足りませんし、父親は重労働をせざるを得ません。たくさん子どもたちを養わなければならない故の悩みを紛らすために夜は酒にひたり、家に帰れば誰と寝るかわからずとんでもない事が起こります。だからといってこの男は獣だと簡単に片付けてはいけません。仮にこの父親が自分の娘と寝てしまった場合或いは自分の母親や妻を暴力的に扱って犯した場合にもこの男は獣ではなく 1 人の人間です。たしかに心の中に障害が残ります。人間ですから良心があります。ですから悩みは更にひどくなり、彼の行動は益々ひどくなるかもしれません。性暴力というのはただ本の中で読んだような事ではありません。生きている人間、良心のある者と関係のある問題だと思っています。ですから彼らがどのような生活をしているのか皆さん見に行ってみて下さい。どんな酷い日常生活を送っているかを。そうすれば性暴力が何の事であるのか分かるようになります。もし彼らに家があったら、もし教育があったら或いは毎日の食事に事欠かなければそのような酷い事をしないとします。開発国における性暴力の原因は絶望的だと思います。(次号に続く)

1994 年 11 月 26 日、全国 NGO の集い分科会にて、ジョヴァンニ・リヴァ師が講演した内容をお届けします。リヴァ師は「友情こそが真の平和を作る」という理念のもと、祈り、教育、働きについて絶えず若者に教えました。オリーブジャパンと各国のカウンターパートの活動はその教えを礎としています。

エルサルバドルみつばち保育所写真展 & 活動報告

ONEWAY 国際平和文化協会 第 11 回 写真展

Photo Exhibition

エルサルバドルみつばち保育所の活動報告



La Amistad

良い友情は 死よりも強く

遠く離れても さらに強いものになる

友情は人生においての歌 友情は心を生き生きとさせる

2019 年 4 月 7 日(日) 10:00~15:00

本山生協会館 2 階 ルーム II

OneWay

オリーブジャパン国際開発協力協会

New Teachers Association

The Others

onewayjapan2011@gmail.com/080-4306-1057(鈴木)

バザーのお知らせ

カトリック城北橋教会みこころバザー

2019 年 6 月 2 日(日) 10:50-14:00

中米の貧困に苦しむ子どもと若者の教育支援のためにチャリティーショップを定期的に開催しています。

ご家庭にある、日用品、衣類、靴、アクセサリ、バッグ、雑貨などのご提供をよろしくお願いいたします。皆さまのご協力をお待ちしております。

連絡先 080-4306-1057(鈴木)



どの場合ジェスチャーを使います。イタリア人の手の動きを見れば、その人が怒っているのか、喜んでいるのか、悲しいのか、冗談を言っているのか理解できます。楽しくイタリア語を学びませんか。

イタリア語講座たより

授業は前回のレッスンのおさらいから始まりその後新しいトピックを学びます。文章を読んだり話したり、最後にボディランゲージなどについて勉強します。イタリア人は何かを説明するとき、ほとん

「えっ、なんでイタリア語？」と思う方が多いかもしれません。イタリア語は英語と違って、イタリアでしか使えない言語で

す。だからこそ皆が知らないから間違えても恥ずかしくないと思い始めました。何よりも私はイタリア文化が大好きなのです。もっとイタリアのことが知りたいという気持ちと、ピエトロ先生の simpatico (親しみ) で楽しいレッスンによってかれこれ 1 年も続いています。みなさんも一緒にピエトロ先生にイタリア語を習いませんか。

(受講生：水野喜文)

何か新しいことを始めたいという軽い好奇心でイタリア語講座を受講し始めました。毎回新鮮な気持ちでとても楽しいです。イタリア語を習う時に日本語ベースで考えてしまうのですが(これは良くないかもしれませんが)文章の作り方が色々違うことに驚いています。また言語だけではなく、ジェスチャーや文化・風習も知ることが出来ます。異文化に触れ視野が広がることによって日常生活にも新たな発見があるような気がします。(受講生：今枝伸輔)

第 1、2、4 水曜日 19 時~本山生協会館ルーム 1

受講費:5,000 円/月 申し込み 080-4306-1057 (鈴木)



講座・チャリティーショップの収益金はすべて、イタリアの I.S.I を通して、中米の貧困に苦しむ子どもと若者の教育支援事業に充てられます。

会員募集 オリーブジャパンの活動に賛同していただける会員の方を随時募集しています

- ・賛助会員 (1 ヶ月 1 口 10,000 円)
- ・正会員 (1 ヶ月 1 口 5,000 円)
- ・協力会員 (1 ヶ月 1 口 2,000 円)
- ・参加会員 (1 ヶ月 1 口 1,000 円)
- ・同調会員 (1 ヶ月 1 口 500 円)

振替口座番号

00890-1-24582

会員の皆様には、会報「オリーブプレス」と講演会、バザー等のご案内を優先的にさせていただきます。

郵便振込用紙に必要事項と会員の種類、納入方法(月払い/年一括)をご記入の上、会費を納入ください。

オリーブプレス Vol.29 2019 年 4 発行

オリーブジャパン国際開発協力協会 olivejapan80@hotmail.com

http://olivejapan.sakura.ne.jp/

編責：オリーブプレス編集部